



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信 (No.7)

100周年記念事業実行委員会

◆ 100周年記念事業実行委員会からご挨拶 (委員長 藤野 陽三)

「工学」の中心的存在である土木は、電気、機械、建築などが学会を創設して日本工学会から独立していくのを見届けたあと、1914年11月24日に土木学会として独立しました。2014年に創立100周年を迎えます。

この100年は日本にとり激動の時代であり、特にこの20年間には、とりまく環境や土木に求められる社会的な要請は大きく変化しました。人口減少・少子高齢化、グローバル化、経済状況の悪化、地方の疲弊、インフラの維持・管理費の増大、頻発する災害、資源・エネルギー・地球環境問題など、数多くの課題が存在しています。常に大局的な展望を保ち、時代の変化を捉えつつ社会からの要請に応え、公益の増進を図るために努力を続けることが、土木の使命です。また、個々の技術を進歩させることに加え、総合性を身につけ、人類の生存と営み及び人類と自然の共生に貢献するという活動・精神は、学会創立以来不変のものです。

このような考えのもと、土木学会は、安全で安心できる、魅力と活力のある地域、国、世界の実現、さらには次世代が夢と希望を持てる社会の創造のために、「社会貢献」「国際貢献」「市民交流」を3本の柱とした100周年事業を、2012年～2014年の期間に実施します。「社会貢献」の中でも特に「社会安全」に関わる活動を、最も重点的に展開することで、今後も豊かな市民生活の礎であり続けたいと考えます。さらに、支部活動の活性化および海外支部とのネットワークの強化に力を入れ、学会活動を発展させます。

国際関係では、英文論文集の発行、2014年11月に予定されている100周年記念式典の前に予定されている国際会議のほか、さまざまな事業を企画しています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。(<http://jsce100.com/>)



100周年記念事業実行委員会
委員長 藤野陽三
(東京大学 教授)

【ACECC 第24回理事会 報告】

2013年2月22、23日の2日間にわたり、台湾・台北にてACECC 第24回理事会が開催されました。ACECCに加盟するASCE(米国)、CICHE(台湾)、EA(オーストラリア)、HAKI(インドネシア)、ICEI(インド)、JSCE(日本)、KSCE(韓国)、そしてPICE(フィリピン)の代表者、関係者計51名が参加しました。

今回の理事会では、ACECC賞の受賞者の決定、そして今年8月にジャカルタで開催される第6回アジア土木技術国際会議(CECAR: Civil Engineering Conference in the Asia Region)の準備状況が中心です。

ACECC賞は、アジア域内の土木技術と発展に貢献のあったプロジェクトならびに個人に対し表彰するもので、3年に一度開催されるCECARの場で表彰が行われます。今回の理事会においてACECC表彰委員会の報告があり、土木学会が推薦した候補の受賞が決定いたしました。特にプロジェクト賞は、最も評価が高かったため、「Outstanding ACECC Civil Engineering Project Award(s)」としての受賞となります。

- ・ Outstanding ACECC Civil Engineering Project Award(s) (プロジェクト)
新東名高速道路の建設 (中日本高速道路 (株))
※この他、KSCE (同点一位)、CICHE、PICE が推薦したプロジェクトが受賞。
- ・ ACECC Civil Engineering Achievement Award(s) (個人)

岡田 宏 氏 ((一社)日本交通協会副会長、土木学会元会長)

※この他、KSCE、HAKI が推薦した候補者が受賞。

これから 8 月の CECAR に向けた活動が本格化してまいります、ご協力をよろしくお願いいたします。



ACECC 代表メンバー

【ミャンマー建設大臣 JSCE訪問】

去る 2 月 26 日(火)にミャンマー連邦共和国建設省 (Ministry of Construction: MOC) のチョウ・ルイン大臣 (H.E.U Kyaw Lwin)、駐日ミャンマー連邦特命全権大使キン・マウン・ティン氏をはじめとする代表団 10 名が来会されました。土木学会からは小野会長、山本前会長、橋本次期会長、森地政策研究大学院大学教授、上田国際センター長、大西専務理事他が出席し、和やかな雰囲気の下、活発な意見交換がなされました。

Lwin 大臣からはミャンマー建設省の取り組み、インフラ整備、土木技術の向上など、現在のミャンマー土木界が抱える課題について紹介があり、JSCE の取り組みに期待する旨、お話をいただきました。

これを受け、JSCE からは、現在計画を進めているミャンマー工学会 (Myanmar Engineering Society: MES) とのジョイント・シンポジウムについて、説明するとともに今後も更に連携を深めていくことを相互に確認しました。

国際センターでは、二カ国間の技術者の協力と協働の機会が広がるよう、積極的に交流を図ってまいります。



ミャンマー建設大臣一行と JSCE 幹部



ルイン建設大臣と橋本次期会長



ルイン建設大臣と小野会長

イベント情報

- ・ 5/27-29 : 第1回コンクリートサステナビリティに関する国際会議@都市センターホテル（東京）
(http://www.jci-net.or.jp/j/events/20130527-0529_02.html)
- ・ 3/18-20 : 持続可能な発展のためのトンネル、地下空間建設に関する国際ナショナル・シンポジウム@ 韓国・ソウル, COEX (<http://www.tu-seoul2013.org/guide01.html>)
- ・ 3/6&7, 13&14 : 東日本大地震から2年：被災地の本格復興と日本再生への処方箋（言語：日本語のみ）
<http://committees.jsce.or.jp/2011quake/20130306>
<http://committees.jsce.or.jp/2011quake/node/145>

お知らせ

- ◆ ACECC 6th CECAR @インドネシア・ジャカルタ（2013年8月20-22日）開催されます。
<http://committees.jsce.or.jp/acecc/6thcecar>
- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのwebsite（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ コンクリート委員会 ニュースレター No. 32 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/newsletter31/index>.

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・ 日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・ 英語版 : (http://committees.jsce.or.jp/s_iad/iac_news_registration)
- ・ 英語版（日本の大学等への留学経験をお持ちの方） : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

会長のつぶやき

- ◆ 日本の社会資本の維持管理について

2012年12月2日の朝、山梨県の中央高速道路笹子トンネル上り線で、130mにわたり天井のコンクリート板が崩落しました。この事故で9名の方が亡くなり、2名の方が負傷されました。これは日本の高速道路の歴史の中で最も重大な事故の一つです。各々の天井板は、長さ5m、幅1.2m、厚さ8~9cm、重さ約1.2~1.4tです。これらは換気ダクトの一部であり、アンカーでトンネル頂部に固定されていました。この事故の原因は、現在調査中です。



写真：山梨県大月市消防本部

この事故を踏まえて、我々土木学会は、日本の社会資本の維持管理を考えるタスクフォースを2012年12月21日に立ち上げました。

日本の社会資本は主に1955年から1973年の間に急激に建設が進み、現在それらの多くが老朽化し、構造的な問題が指摘されています。社会資本は我々の生活と、社会的・経済的活動を支えているものでありますが、

その維持管理程度に応じて耐久性に大きな影響があり、ひいては私達の社会に重大な影響を及ぼします。一方で、私達は維持管理に十分な専門技術者、管理システム、そして予算の不足という問題を抱えています。

私達のタスクフォースは様々な分野の専門家の協力を得て、技術開発、技術者教育、管理手法、そして予算を含めた制度面の改善について議論を行う予定です。また、国土交通省や日本建設業連合会が各々主催し、社会資本維持管理について調査・議論している情報を参考としていきます。私達は、社会資本の現実的な維持管理戦略を管理者に提案するばかりでなく、戦略実現の一助となることを目指します。

編集後記

未だ寒い日が続いていますが、少しずつ桜の芽が姿を出し始めております。先日のミャンマー建設大臣がご来会は、やはり寒い日でした。ミャンマーとの温度差を思うと、我々以上に寒くお感じになられたと思います。そして5月には、ミャンマーでのジョイント・シンポジウムを計画中です。今度は、日本側がミャンマーの温度を肌で感じる機会です。お互いの環境に触れることで考え方や視点が見えるようになり、お互いにとってより協力の形が解かってくるのではないのでしょうか。(Y)

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

